

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

2020

10

No.832

P2 特集

地域福祉を支える 赤い羽根共同募金
～つながりをたやさない社会づくり～

P6 「ストップ・ザ・無縁社会」地域での支え合い

P7 みんなでつくるひょうごの福祉
子どもたちが、未来に希望を持てる
社会を目指して

P8 セルフヘルプグループのリアル
NPO法人 ガジユマルの船

P9 私の物語
心が通い合い子どもたちが育まれる
里親家庭を地域社会に広げたい！
橋本 明さん(神戸市)

P10 ひょうごの福祉NOW

P12 インフォメーション



スポーツの秋。
市川町は国産ゴルフ
アイアン製造の発祥地だよ。

10月1日から「赤い羽根共同募金運動」と「里親月間」がスタートします



この機関紙は赤い羽根共同募金配分金により発行しています。



地域福祉を支える 赤い羽根共同募金



～つながりをたやさない社会づくり～

新型コロナウイルスの影響を受けた各地の地域福祉活動は、今、手探りで活動を再開し、工夫を重ねて粘り強く活動を続けている。

コロナ禍において地域の“つながり”が弱まり、途絶えることさえ心配されるが、その分だけ、赤い羽根共同募金運動が進めてきた「支え合い」「助け合い」の大切さが再認識され、寄せられる期待も高まっている。

74年目を迎える今年の共同募金運動は、コロナ禍を念頭に全国共通助成テーマ「**つながりをたやさない社会づくり～あなたは一人じゃない～**」を掲げ、緊急支援として立ち上がった各種のプロジェクトが、さまざまな形で顕在化した地域の生活・福祉課題の解決に向けた活動を支えている。今回の特集ではこれらの動向を交えてレポートをしたい。

上段の写真 左上)10月1日キックオフイベントと街頭募金(神戸市長田区) 右上)社会福祉施設への備品整備(太子町)
左下)地域の子どもたちへの福祉学習(上郡町) 右下)募金活動の様子(香美町)

新型コロナウイルスと 共同募金

共同募金運動は、昭和22年に「国民助け合い運動」として、戦禍で被災した福祉施設などを支援するためにスタートした民間運動である。「困ったときはお互いさま」の精神を今に引き継ぎ、地域の課題を解決するために活動する民間団体を支援してきた。長い歴史のある共同募金だが、今年は新型コロナウイルスの影響で取り巻く状況が一変した。特に、地域での交流が制限され、「支え合い」「助け合い」活動自体が難しくなったことは、これらの活動を支えてきた共同募金にも「活動の再開や継続を模索する団体をどのように支えるべきか」という課題を突き付けたといえる。

コロナ禍でも 支える人を支えるために

新型コロナウイルスの影響を受け

図1 支える人を支えよう! 赤い羽根 新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーン

子どもと家族の緊急支援助成 (都道府県共募)

子どもと家族をめぐる生活課題を解決するための活動を応援。
【活用例】各地域の状況に合わせて、子どもに限らず、見守りを兼ねた配食、環境衛生に配慮した居場所づくりなどの活動

**335件、5,780万円の助成決定
(助成継続中)**

フードバンク活動等応援助成 (中央共募)

子ども食堂や学童保育、福祉施設・団体などへ、企業や地域から寄贈された食料を緊急的に届けるフードバンクの活動を応援。

【活用例】フードバンク、福祉施設等相談機関や配食等を行っている団体に食材や食事を提供する活動

**120件、1億333万円の助成決定
(第1回)**

withコロナ 草の根活動応援助成 (中央共募)

withコロナの社会におけるボランティア団体などによる新たな地域福祉活動への組織づくりを応援。
【活用例】withコロナの社会における持続可能な活動のあり方の検討、新たな活動のための資材等の整備など

**148件、総額1,480万円の助成決定
(第1回)**

居場所を失った人への緊急活動 応援助成(中央共募)

虐待などで家にいられない子どもたち、外出自粛のストレスで家庭内暴力(DV)の恐れが高まっている家庭などの相談支援、居場所提供などの活動を支援。

【活用例】居場所が失われた人への相談支援、DV、虐待のシェルターなど先駆的・モデル的な活動

**21件、3,953万1,000円の助成決定
(第1回)**

各地の地域福祉活動を支援するために、中央・都道府県共同募金会では、新たな福祉ニーズや、深刻化した生活・福祉課題へ対応するため、全国一斉に「支える人を支えよう! 赤い羽根 新型コロナウイルス感染下の福祉活動応援全国キャンペーン」を緊急的に実施した(図1参照)。

また、県共同募金会では、新型コロナウイルスによる影響を大きく受けると見込まれた、子どもと家族の生活支援のため、県内で活動する子ども食堂など22団体に「子どもと家族の緊急支援助成」を実施した。
ここでは、緊急支援助成を活用した2つの事例を紹介する。

そのつこタやけ食堂 ボランティアグループ

(尼崎市)

新型コロナウイルスの影響で、運営していた子ども食堂を休止したが、できることを模索し、給食が再開されない小学校へのお弁当の配達を新たに始めた。

子ども食堂は開けずとも、メッセージカードを添えたお弁当を手渡すことで、ボランティアスタッフと子どもたちの交流は続き、子どもたちの見守りも維持することができた。



ボランティアによる手作りのお弁当には、子どもたちへ心のこもったメッセージが添えられた

中央小学校区で子ども食堂「にこにこキッチン」を運営している「にこにこmama's」は、一斉休校中、そして6月の学校再開後も、さまざまな事情で、一人で昼食を食べている子どもたちに、楽しい時間を過ごしてほしいと食事の場を提供した。一人とは違い、友達とご飯を食べることで、子どもたちにも明るい笑顔が広がった。



子どもたちに笑顔を、仕事に子育てに忙しい親にはほんの少し、心の余裕を提供

学校給食の再開後は、高齢者や就学前の親子を対象とした地域の食堂として活動を続け、新たなつながりを地域に生み出している。

学校の一斉休校、給食の停止、子ども食堂の閉鎖などは、地域での子どもへの見守りを困難にした。しかし、この困難に直面しながらも、新しい活動を取り入れ、工夫をしながら、「つながり」をたやさない努力をする団体・活動者が県内には多数存在する。

今回の緊急支援助成は、地域に根ざした活動と(地域を)支える人を支える一助になったといえる。2つの事例からは、**緊急時に生じる新たな課題に、柔軟性と即応性をもって対応すること**も、民間財源である共同募金の重要な役割であるといえる。

地域福祉をささえる共同募金

今年も10月から「赤い羽根共同募金運動」が始まる。

共同募金は、継続的な活動に助成するだけでなく、**地域に潜在化している課題を探り、その解決を目指す新しいチャレンジを積**

極的に支えることが求められている。また、共同募金は募金を集める主体も地域住民自身であることから、**地域全体で共同募金への理解を深めるため、福祉学習と結びついた運動を展開することも重要**だ。ここでは、昨年度、モデル事業として取り組んだ3つの事例を紹介したい。

ひきこもりや生活に課題を抱える人の社会参加を支える地域づくりのための調査・検討

(淡路市共同募金委員会)

淡路市では、既存の制度では対応できないひきこもりの方やその家族の課題について、地域で協働して解決を図るため社協職員が積極的に研修に参加し、支援感を培ってきた。職員会議などで、中間的就労のあり方を検討し、地域での理解を促すための講演会にも取り組んだ。

さらには、市の検討委員会へ参画し、潜在化しがちなひきこもりの課題について関係機関と一緒に理解を深めてきた。これらの取り組みを基盤とし

て、今後は、ひきこもりの方を支援するサポーター養成講座を企画しており、その財源に共同募金配分金を活用する予定である。



特別講演では、ひきこもり支援を地域福祉の視点で捉える大切さを共有した

学生と一緒に取り組む募金活動 (芦屋市共同募金委員会)

芦屋市では、市内の中学生に缶バッジのデザインを依頼し、若い世代にも愛着が持てる共同募金オリジナル資料を作成し募金活動での活用を図った。

最優秀作品は社協だよりで広報し、入賞12作品は「ガチャガチャ募金」のお礼として配布さ

れた。

中高生と協働した今回の経験を糧に、今後も若い世代と一緒に共同募金の大切さを地域住民に伝えていく。



地域のイベントで「ガチャガチャ募金」を実施

**高校生と一緒につくる募金箱
(丹波篠山市共同募金委員会)**

丹波篠山市では、県立篠山産業高等学校の学生に依頼し、市民の注目を集め、話題になる募金箱をつくるため、一緒に募金箱のアイデアを考え、市のマスコットキャラクター「まるいの」を題材にした「しゃべる募金箱」を制作した。

地域のイベント会場では、同校の学生と共に募金活動を行った。

このことにより学生にとっても共同募金活動を理解するきっかけとなった。

プロジェクトに参加した生徒は、「この募金箱が少しでも共同募金の役に立てば」と話してくれた。若い世代に地域社会や共同募金への関心が高まる新たな取り組みになった。



募金箱は、NHKや地元新聞にも取り上げられ、共同募金の効果的な広報につながった

淡路市の事例は、地域に埋もれがちだが、何とかすべき課題を探り、地域から寄せられた募金を有効に活用しようとする取り組みだ。ひきこもりの方への支援など、制度化されていない課題に対応し、開拓性を発揮し、実践につなげることも共同

募金ならではである。

芦屋市と丹波篠山市の事例は、学生と一緒に募金活動をすることで、募金の目的や使い道への理解を促している。募金運動と若い世代の創造力とを掛け合わせた2市の事例は、地域の幅広い世代に共同募金や地域課題への関心を広げていくヒントになる取り組みである。

**どんな時でもつながりを
たやさないために**

ここまで見てきたように、地域の福祉団体の活動を支えてきた共同募金は、変化する地域の生活・福祉課題に対応する活動を下支えしている。

少子高齢化が進み、地域を支える公的財源と地域を支える活動者の減少が予想される中、共同募金の「支え合い」「助け合い」の精神を引き継ぐことは、今後とも変わらず大切だ。募金活動と助成活動の双方を通して、地域の「つながり」をたやさない社会づくり「さらには、「つながりを

生み出し続ける社会づくり」に共同募金は寄与していく。

令和2年度 共同募金運動行動指針 (社会福祉法人 兵庫県共同募金会)

共同募金運動を通じて「つながりをたやさない社会づくり」を進めましょう
特に今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止を念頭におき運動を進めましょう

1. 赤い羽根ひょうごスローガン「助け合い 広がる つながる 赤い羽根」をきっかけ、運動を進めましょう
2. 共同募金運動を通じて、みんなで身近な生活・福祉課題の解決に努めましょう
3. 募金ボランティアやさまざまな団体・企業・学校の参加を呼びかけ、つながりの大切さを伝える運動を進めましょう
4. 大規模な自然災害や非常時においてもお互いを助け合い、支え合える地域づくりを支援しましょう
5. 人と人との距離を保ちつつ、広く協力を呼びかけ、募金の使いみちや役割りをわかりやすく伝えましょう



「ストップ・ザ・無縁社会」

広がれ！ 全県キャンペーン

<http://stop-muen.jp>

TOPICS

地域フォーラムの開催予定について

今年も県内各地で地域フォーラムが開催されます。感染症への対策をしながら多くの方の参画を得るため、中にはインターネットやケーブルテレビの活用など新しい手法を取り入れた企画も進んでいます。

地域フォーラムの開催予定(10月以降の開催分のみ掲載)

開催日(予定)	開催地	事業名称
10月17日	新温泉町(浜坂漁協 浜坂港駐車場)	福祉講演会 ドライブ イン 福祉シネマ
11月21日	芦屋市(芦屋ルナ・ホール)	ストップ・ザ・無縁社会地域フォーラム ～芦屋市中学生福祉ボランティア学習6年間のあゆみ「地域と学校と家庭」～
12月	姫路市(姫路市総合福祉会館)	子育て支援事業ボランティア交流会
12月14～20日	南あわじ市	地域福祉フォーラムonケーブルテレビ ～みんなで考え みんなでつくる 笑顔のまち実現に向けて～
12月頃・2月頃	豊岡市(豊岡健康福祉センター)	地域福祉フォーラム
2月4日	神河町(神河町中央公民館 グリンデルホール)	神河シニアカレッジ公開講座～高齢者の社会参加による介護予防～

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、参加方法や留意点などの詳細は、各社協で確認の上、ご参加ください

地域での居場所づくりを進めよう はまcaféマリナふらっと(西宮市)

ヨットハーバーに隣接する西宮浜地区の「はまcaféマリナふらっと」は、ユニバーサルカフェ開設応援助成を活用し、この7月に立ち上がった地域の集いの場です。

阪神・淡路大震災後に街開きしたこの地区も、少子高齢化が進むことから、孤立せず誰もが集える場を求める声が上がりました。住民の理解を得るための取り組みや物件探しなど、行政や市社協のサポートを得ながら準備を進めましたが、新型コロナウイルスの影響で今年前半はオープンを見合わせました。その状況でも、ボランティアスタッフが備品の手配や打ち合わせを重ね、晴れてコロナ禍を乗り越えてカフェが誕生しました。

リーダーとして開設に取り組んだ、西宮マリナパークシティ協議会会長の木村勇一さんは、「“ふらっと”のネーミングには、“気軽に立ち寄れる、みんなが対等な空間を”という願いが込められている。みんなと話し合いWithコロナ時代の活動を模索したい」と今後を見据えます。交流と見守りの拠点として、こだわりのコーヒーや紅茶と共に“ふらっと”が地域に一層根付くことが期待されます。



多い日には約40人が
思い思いの時間に集うカフェ。
子ども連れのお母さんの姿も



木村さん(右)とボランティアの皆さん。
ロゴは地域の方がデザインしました



感染症対策にも気を配って、
カフェを運営しています

はまcaféマリナふらっと
西宮市西宮浜4-14-3 花のまちマリナヴィラ1階西側
※当面は月・水・土 10時～16時にオープン

みんなで作るひょうごの福祉



子どもたちが、未来に希望を 持てる社会を目指して

今回紹介する「**enGrab**」は、子どもたちが抱えるさまざまな悩みが SNS を活用して相談に乗ったり、気軽に立ち寄れる居場所を提供して、寄り添った支援を行っているよ。

子どもたちを ひとりぼっちにしない

目立たないかもしれないが、虐待や家庭不和、性被害など、さまざまな困難を抱えている子どもたちがいる。子供たちにとって「言いだしにくい悩み」に直面するほど、自ら助けを求めることが難しく、公的機関だけでは支援が行き届かないのが実情だ。

そんな子どもたちを「ひとりぼっちにしない」との思いから、一般社団法人 enGrab 代表理事の桑原陣さんは、尼崎市の保健師

として働く傍ら、平成29年から Twitter で10代のための相談窓口を始めた。

根底にあるのは、経済的に恵まれない家庭で育ち、部活動で周りと同じ用具が買えない、参加のしづらさから孤立した学校生活を送った自らの経験だ。

相談は全国から寄せられ、メッセージのやり取りは3年で7,000件を超えた。望まない妊娠や自殺企図、虐待など深刻な内容に一件ずつ返事するほか、必要があれば弁護士や支援機関につきなぎ、本人が前を向けるよう寄り添った支援を心掛けている。

地域に安心できる 居場所をつくりたい

相談に乗るうちに、信頼できる大人との出会いが子どもたちに一歩踏み出す勇気を与えると感じ、昨年かから月2回の「アマたまカフェ」を開催。カフェでは、桑原

さんに賛同する大学生や現役の教師が、ボランティアとして子ども話の相手になり、学習支援にも応じている。フードバンク関西から提供されたお菓子も用意してリラックスできる環境を整えながら、家庭とも学校とも違う「第三の居場所」として地域に根付き始めている。

今後の目標は、若者に衣食住を提供するシェアハウスの運営だ。相談やカフェで話を聞いてもらい、心が落ち着いても、その日は家に帰りたくないところ、子どもたちがいる。公的な支援につながらるまでの一時的な生活の場が求められており、それに応える新たなプロジェクトを桑原さんたちは思い描いている。



公民館で開くカフェは、お菓子や漫画も充実した快適な空間(左が桑原さん)



ゲームでワイワイ楽しむ時間も大切にしている

「縁(en)」を自らの手で「掴む(Grab)」との思いを込めた enGrab の活動は、子どもたち一人一人が孤立から解放され、困難を一緒に乗り越えられる社会を目指して続いていく。

取材を終えて

子どもたちが今、抱えている悩みに丁寧に耳を傾けながら、その背後を押ししてくれる大人の存在、向き合ってもらえたという経験が、明日につながる力になると感じました。

一般社団法人 enGrab

HP : <https://engrab.org/>

Twitterアカウント : @engrab_ama

E-mail : engrab.ama@gmail.com

セルフヘルパグループのリアル

会報・資料を会員に送る準備。直接会えなくても、つながり続ける手段の一つだ



Q1. グループを立ち上げたきっかけは

A. 各地に存在する摂食障害の自助グループは、以前からお互いに横のつながりがあり、例えば、「摂食障害集まりの会」という全国規模の集いは平成24年から続いています。そこで知り合った摂食障害や依存症で悩む仲間と声を掛け、平成30年に「NPO法人 ガジュマルの船」を立ち上げました。

いつでも集える居場所をつくるのが何よりの願いでしたから、賃借契約に必要な法人格を取得しました。幸運を呼ぶとされる植物“ガジュマル”と、一緒に乗って進む“船”をイメージしたグループ名は、志を共にする仲間と緩やかに話し合う中で決まりました。

Q2. 現在どのような活動に力を入れていますか

A. 互いに推薦する本を読んで感想を語り合う「読書会」や「ミーティング」などがあります。活動の中心は会員同士のミーティングですが、お互いに“言いつ放し聞きつ放し”が基本で、批評しないルールです。一方で「当事者研究」は、話し合った内容から仲間同士の共通点を探り、自らの病気や思いなどを文字に変えて社会への発信を目指す取り組みです。冊子の作成も将来の目標に入れ、模索して取り組んでいます。

また、昼休みにZoomを使いオンラインで雑談をする「あいさつミーティング」は、コロナ禍でも会員が孤立しないようにと始めた活動です。オンラインでも参加できる形態は、新型コロナウイルスの影響で急速に進んでいます。



NPO法人 ガジュマルの船

紹介する“ガジュマルの船”は、摂食障害[※]や関連する依存症で生きづらさを抱える人たちのグループです。集いの場づくりにこだわる20名の会員と関係者は、コロナ禍を乗り越え、仲間とつながり続ける中で生きづらさや悩みを分かち合い活動しています。

Q3. 社会に望むことやグループの目標は何ですか

A. 医療や福祉関係者にも、摂食障害が正確に理解されていないのが実情だと感じます。摂食障害や私たちの活動を知ってもらう上でも、例えば各地の社協とつながり発信の機会を得られたら、地域の理解も広がると思います。社会の理解と併せ、小さなグループへの助成金など継続的なサポートを得られたらとも思います。

私たちの活動では、「支援者と利用者」という関係ではなく、今後も相互にフラットな関係を大切にしたいです。摂食障害や依存症に悩む人が孤立しないよう、居場所を大事にしながら、さまざまな形のつながり合い方を模索しようと思います。

小さなガジュマルの木と会員の作品であるコラージュ



オンラインでつながる取り組みにも力を入れています

NPO法人 ガジュマルの船
神戸市中央区二宮町2丁目2-5
HP:<https://gajumaruship.jimdofree.com/>
Facebook:<https://www.facebook.com/gajumaruship/>

[※]摂食障害:摂食障害には食事をほとんどとらなくなる拒食症、極端に大量に食べてしまう過食症があります。さまざまなストレスが要因となっていることも多く、周囲の人の理解やサポートが大切とされます
参考HP:https://www.mhlw.go.jp/kokoro/known/disease_eat.html

一つ一つの出会いを
大切にしていって縁を紡ぐ



このコーナーでは、地域福祉のキーパーソンや実践者・当事者らのエピソード・想いを紹介していきます。

心が通い合い子どもたちが育まれる里親家庭を地域社会に広げたい!

はしもと あきら
橋本 明さん
(神戸市)

Personal History

昭和41年(22歳) 大学卒業後、虚弱児施設(現:児童養護施設)の建設に関わり、完成後、児童指導員として勤務
昭和43年(24歳) 渡米し、大学院で社会福祉を学ぶ傍ら、里親や養子縁組の研修などへ参加。翌年、欧米の福祉施設の見学、ボランティア
昭和45年(26歳) 帰国し出版社に勤務
昭和50年(31歳) 家庭養護促進協会 事務局長に就任
平成4年・平成13年 アメリカのシアトルで里親・養子制度の調査・研究
平成15年(60歳) 兵庫県社会賞 受賞

私を変えた福祉との
出会いと学び

就職活動中、たまたま手にした本の中の二度しかない人生を、自分の幸せだけでなく、社会で弱く苦しんでいる人を幸せにするために使おう」という文章に出会いました。サラリーマンとしての生き方に疑問を感じていた私は、その言葉にインスピレーションを受け、神戸で児童福祉施設の建設に関わり、児童指導員として勤務しました。

その後、アメリカやヨーロッパで社会福祉を学ぶ機会がありました。民間の児童福祉機関で受けた里親や養子縁組の研修、旧西ドイツのベテルでの障がい者との生活などが私に大きな影響を与えました。帰国後、出版社の勤務を経て、昭和50年に家庭養護促進協会(以下、「協会」)で働き始めました。

一つ一つの出会いを
大切にしていって縁を紡ぐ

昭和36年以来、協会では、新聞やラジオ番組で里親を開拓する「愛の手運動」などを半世紀にわたり

展開してきました。しかし、私が勤めた当時の協会は、運営が困難で、事務局長として事業の継続のために、毎日ハラハラしながら活動資金集めにも奔走しました。

協会には、年間500件以上の里親希望者が、さまざまな背景や思いを抱え、相談に來られます。「ここへ来て気持ち良くなった」「この人に出会えて良かった」と感じていただけるよう、気持ちや希望に寄り添うことを心掛けています。協会を支えてくださった方や里親希望者など、これまでの出会いに感謝しています。

私たちに
できることを考える

かつては、家庭の不和や病気で親に育てられない子どもが多かったようでした。今は、虐待による心の傷や、何らかの障がいを持つケースも多く、必要な支援もさまざまです。

東日本大震災の際、「親を失った子どもの役に立ちたい」という相談が協会にもありましたが、東北では親戚が孤児や遺児を引き

取るケースがほとんどでした。里親が必要な子どもは、私たちから遠く離れた所にいるのではなく身近な地域にもたくさんいます。短期でも家族的なつながりや生活を体験できるよう、週末里親や季節里親のプログラムもあります。未来をつくる子どもたちのために、皆さんもまず自分にできることから始めてみませんか?

公益社団法人家庭養護促進協会

<https://ainote-kobe.org>

10月は里親月間です



子育てのスキルや心構えを学ぶ里親たち

市町域での権利擁護体制
づくりを進めるために

県社協は9月2日、県民会館において権利擁護・成年後見推進会議を開催した。同会議は、市町域の権利擁護体制づくりを進めることを目的に、県、神戸家庭裁判所、専門職後見を担う三士会（弁護士会、司法書士会、社会福祉士会）、県社協ならびに学識者によって構成され、各団体間の課題共有や有効な支援方策などについて幅広く協議された。

実際に後見受任を行う三士会からは、制度利用を促進するための報酬助成の充実や、後見人を組織的に支援する仕組みが求められるといった意見があった。

また、県が行った調査からは、成年後見制度の利用率や受任できる専門職の人数に市町間のバラつきが大きいという課題が見えてきた。現在、県内の成年後見または権利擁護支援センターは、約半数の市町で設置済みとなっている。今後は、単にセンターを設置し、担当窓口を置くという量的

な側面だけでなく、利用者本人の意思決定支援ができていないか、利用者の支援を通じて地域の支援ネットワークを構築できているかといった質的な面も含めた両輪で体制整備を点検・推進する必要性が指摘された。

なお、同会議は今後も継続して開催し、市町の実情と課題に合わせた具体的な方策を検討していくことで一致した。



有効な支援方策などについて、活発な議論が交わされた

令和3年度の
社会福祉政策への提言

今年9月、県社協では、「令和3年度兵庫県社会福祉政策への提言」を取りまとめた。本提言書は、県内の社協、施設・事業所団体、職能団体、当事者団体などの意見をもとに、国や県施策への反映を求める事項を取りまとめている。

現在、新型コロナウイルスの感染拡大によって、福祉現場には感染リスクの低減とサービス維持の両立を図る日々の対応が求められる。また、コロナ禍で増加する生活困窮者への支援体制の拡充が必要となっている。

これら新型コロナウイルスの影響を念頭に、提言書の冒頭に「新型コロナウイルス感染症対策に関する提言」を特別提言として設けたのが今回の提言の特徴である。

また、福祉現場での人材不足、地域共生社会づくりに向けた市町域での体制整備の推進、各地で頻発する災害への対策などは、継続的な対応が求められる重要な課題である。これらを踏まえ、提言書に

は①福祉人材確保施策のさらなる推進、②地域共生社会の実現に向けた支援強化、③大規模災害に備えた支援体制の強化、の3つを重点提言として整理している。

令和3年度
兵庫県の
社会福祉政策への提言

特別提言
新型コロナウイルス感染症
対策に関する提言

重点提言

- 1 福祉人材確保施策のさらなる推進
- 2 地域共生社会の実現に向けた支援強化
- 3 大規模災害に備えた支援体制の強化

政策提言の特別提言・重点提言は県社協ホームページに掲載しています。

URL：
<https://www.hyogo-wel.or.jp/about/research.php>

QRコード：





原テツアキ議長、春名哲夫副議長への提言



井戸敏三知事への提言

県知事などへ 提言活動を実施

先述の提言書をもとに、9月9日の県知事への提言内容の説明を皮切りに、県議会議長・副議長、県議会の各会派などへの提言内容の説明を実施し、兵庫県社会福祉施策の一層の充実につながるよう理解を求めた。

寄付・寄贈のお礼

本会が運営する兵庫善意銀行などにおいては、県民・企業・団体の皆様から預かった善意の寄付を、高齢者・障害者・児童などの社会福祉の向上に役立てている。今号では温かな善意をお寄せいただいた企業・団体をまとめて紹介する。

- 紀の庄木材株式会社より、児童福祉の推進を目的として、兵庫善意銀行へ10万円の寄付金
- 第一三共株式会社より、県社協へ20万円の寄付金
- 一般社団法人兵庫県宅地建物取引業協会より、県社協へ20万円の寄付金

温かな善意に対し、ここに感謝を申し上げます。
寄付・寄贈のお申し出は、兵庫県社協企画部(078-242-4636)までご連絡をお願いいたします。

社会福祉事業経営相談室だより

※「一般相談」は月・水・金曜日、「専門相談(公認会計士)」は第1水曜日の
10:00~17:00に相談員を配置しています。TEL:078-271-1230

資産の拠点区分間移動(返還・精算予定なしの場合)の 勘定科目について その1

資産を拠点区分間で移動させる際の勘定科目(返還・精算の予定がない場合)については、一般的に、支払資金*の増減を伴うか伴わないかで科目が異なる。本号では支払資金の増減を伴う場合について説明する。

支払資金の増減を伴う場合は、「拠点区分間繰入金費用」を使用し、支払資金の増減を伴うため、資金収支計算書には「拠点区分間繰入金支出」を使用する。例えば、流動資産の預金を繰入金目的でA拠点区分からB拠点区分へ移す場合は、以下の仕訳となる。事業区分間やサービス区分間の資産移動についても同じ考え方となる。

(支払資金の増減を伴わない場合については、次号に掲載する予定です)

<仕訳例> A拠点区分

借 方	貸 方
拠点区分間繰入金費用 (資金収支計算書:拠点区分間繰入金支出)	現金預金

B拠点区分

借 方	貸 方
現金預金	拠点区分間繰入金収益 (資金収支計算書:拠点区分間繰入金収入)

※資金収支計算書の支払資金とは

流動資産と流動負債(1年基準により固定資産または固定負債から振り替えられたもの、引当金ならびに棚卸資産(貯蔵品を除く)を除く)の差額

助成金情報

県社協「ひょうごボランティアプラザ」のWEBサイトでは助成金情報を多数掲載しています。



東京海上日動

あんしん生命奨学金制度

経済的理由により進学が困難な方に、奨学金の給付によって大学などへの進学を後押しすることを目的とします。

対象 疾病により保護者を失った遺児で、経済的理由により支援を必要とし、大学等への進学希望がある方。年間世帯収入金額が指定条件を超えない方

助成額 1件年間30万円

締切り 令和2年10月30日(金)消印有効

④ ⑥ 公益社団法人日本フィランソロピー協会
TEL 03-5205-7580

URL <https://www.philanthropy.or.jp/anshin/>

令和3年度

「キリン・福祉のちから開拓事業」公募助成

障害者福祉分野、高齢者福祉分野、児童・青少年健全育成分野、地域社会福祉分野のボランティア活動を、長期的な視点に立って全国や広域にまたがり実施している、または活動しようと考えている団体に助成します。

対象 10名以上のメンバーが活動する団体・グループであること

※NPO等の法人格の有無、および活動年数は不問。全国や広域(複数の府県)にまたがる取り組みが対象

助成額 1件上限100万円(プログラム助成総額500万円)

締切り 令和2年10月31日(土)消印有効

④ ⑥ 公益財団法人キリン福祉財団 事務局
TEL 03-6837-7013

URL <https://www.kirinholdings.co.jp/foundation/>

日本郵便株式会社 2021年度年賀寄付金助成

社会福祉の増進を目的とする事業など、「お年玉付郵便葉書等に関する法律」に定められた10の事業に対して助成します。

対象 一般枠：社会福祉法人、更生保護法人、一般社団法人、一般財団法人、公益社団法人、公益財団法人、特定非営利活動法人(NPO法人)
特別枠：一般枠に加え営利を目的としない法人

助成額 1件上限500万円 ※活動・チャレンジプログラムは上限50万円

締切り 令和2年11月6日(金)消印有効

④ ⑥ 日本郵便株式会社
TEL 03-3477-0567

URL <https://www.post.japanpost.jp>

公益財団法人 JR西日本あんしん社会財団 2021年度公募助成

「安全で安心できる社会」の実現に関する活動や研究に助成します。

①活動助成

対象 近畿2府4県を拠点にする、事故、災害や不測の事態に対する備え、およびその後の心や身体へのケアに関する活動をする非営利の民間団体(法人格の有無は不問)

助成額 1件上限70万円

②研究助成

対象 事故、災害や不測の事態に対する備え・事故防止、およびその後の心や身体へのケアに関する研究を行う、近畿2府4県にある大学などに所属し当該機関で実質的に研究できる方

助成額 1件上限200万円(①②総額4,000万円程度を予定)

締切り 令和2年11月16日(月)必着

④ ⑥ 公益財団法人JR西日本あんしん社会財団 事務局
TEL 06-6375-3202

URL <https://www.jrw-relief-f.or.jp/>

行事予定

コロナウイルスの感染拡大の状況などにより、下記行事の中止や延期もあり得ますので、ご留意ください。

- 10月 5日** はじめて福祉の仕事に就く人のための研修
◆県福祉人材研修センター
 - 6日** OJTリーダー養成研修(基礎編)
◆県福祉人材研修センター
 - 7日** 災害ボランティア支援団体連絡会議
◆神戸クリスタルタワー
 - 8日・9日** 組織マネジメント基礎研修
◆県福祉人材研修センター
 - 10日** 第1回福祉の就職総合フェア in HYOGO
◆神戸国際展示場(3号館)
 - 11日** 第23回介護支援専門員実務研修受講試験
◆神戸大学鶴甲第1キャンパス
 - 13日** 新任職員ステップアップ研修(Aコース)
◆県福祉人材研修センター
 - 19日** 前頭側頭型認知症の家族交流会
◆県福祉センター
生活支援コーディネーター実践セミナー
◆神戸市内
 - 19日～** 介護支援専門員 更新研修 B・再研修
◆県福祉人材研修センター
 - 21日** チームアプローチ実践研修
◆県福祉人材研修センター
 - 23日** アンガーマネジメント研修(職業倫理と権利擁護研修)
◆県福祉人材研修センター
 - 経営協第257回理事会・例会
◆オンライン開催
 - 11月6日～** OJTリーダー養成研修(実践編)
◆県福祉人材研修センター
 - 10日** アセスメントスキル向上研修(高齢・障害コース)
◆県福祉人材研修センター
 - 13日** 新任職員ステップアップ研修(Bコース)
◆県福祉人材研修センター
- 兵庫県社会福祉関係者表彰式
◆県公館

生活福祉資金特例貸付の受付期間が12月末まで延長されました。

兵庫ジャーナル社
新刊のお知らせ

農福連携を考える その役割とウィズコロナ社会の“ノウハウ”

装丁：A5・128頁 発行日：令和2年9月末発行
発行・問い合わせ：(株)兵庫ジャーナル社 TEL 078-333-7560

玉清生おせち
曙



36品目 3~5人前 冷蔵

創業52年の老舗が作り出す、海の幸、山の幸の素材を生かした生おせちです。

No.1626-8001 通常18,684円(税込)
5%OFF 17,750円(税込)

・消費期限：2021年1月2日(土)
・お重サイズ：19.8×19.8×6.5cm×3段

売り上げの一部を赤い羽根共同募金へ
寄付いたします。

お申込期限：**12/10(木)** お届け日：**12/31(木)**

お電話でのお申込み レッドホースコーポレーション株式会社

0120-988-825

スマートフォン・ケータイ・IP電話から 06-6578-2746
受付時間 9:00~18:00/日、年末年始を除く

WEBでのお申込み **rhosechi.com**

申込コード【161ZA120】の
ご入力・お申出で特典適用となります。

※写真はイメージです。※お申込期限後の変更・キャンセルはできません。※お預かりしたお客様の個人情報はおせちのお届けにのみ使用いたします。



兵庫県社協 出版図書のご案内

◆高齢者施設でのケアマネジメントの参考に…
施設ケアマネジメント研修テキスト

◆経営計画策定の参考に…
**社会福祉法人経営計画
策定ワークブック**



>詳細は兵庫県社協ホームページへ
<https://www.hyogo-wel.or.jp/about/books.php>

【申し込み・問い合わせ先】 兵庫県社協 企画部 TEL078-242-4633